

令和５年度 県立神戸鈴蘭台高等学校 学校評価（目標と評価方法）

1 学校経営のテーマ

【教育方針】

本校は、鈴蘭台高校の校訓である「優雅」と鈴蘭台西高校の校訓である「創造」に、新たに「共生」を加えて校訓とし、これらの校訓のもと、自主自律の精神に富んだ人づくりをめざしている。

また、神戸市内の県立学校として唯一、国際関係コース（国際コミュニケーションコース）を有する本校は、グローバル化の進む社会において、世界的な視野とコミュニケーション能力を持ち、多文化共生社会の実現をめざしつつ、国際社会で活躍できる人づくり、変化の激しい社会においても、幅広く活躍し、社会に貢献できる人材の育成をめざしている。

このような人づくりを実現するために、以下のような教育方針を定める。

- (1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。
- (2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。
- (3) 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりを推進する。
- (4) 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。

2 本年度の重点目標

第3期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の5項目を重点目標とする。

- (1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。
 - ア 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、キャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。
 - イ 生徒の基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。
 - ウ 将来の進路目標を実現し、社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、基礎的・基本的な知識に加え、それを活用する思考力・判断力・表現力・主体的に学習に取り組む意欲・態度などの確かな学力の充実を図る。
- (2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。
 - ア 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に力を入れ、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性を育成する。
 - イ 校内の緑化と美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた自然環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。
 - ウ 生命の尊さや、他を思いやる心を育て、防災・安全教育を充実させる。
- (3) 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりを推進する。
 - ア 国際理解教育を充実させ、世界の人々に信頼され、国際社会の一員として責任を果たせるよう、国際性豊かな共生の心を育む。
 - イ 特に国際コミュニケーションコースにおいては、英語（韓国語、中国語）によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図るとともに、さまざまな分野において国際舞台で活躍できる人材を育成する。
- (4) 保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。
 - ア 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加など、開かれた学校づくりを積極的に進め、家庭・地域社会と互いに連携しながら、いきいきとした魅力ある教育活動を展開する。
 - イ 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。
- (5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。
 - ア 本校の教育目標の達成をめざし、各教職員が学校組織の一員として緊密に連携し、協力しながら、それぞれの課題に取り組む。
 - イ 高大連携、高大接続改革、新学習指導要領など、教育環境の変化に対応し、生徒たちの夢をかなえる教育の充実を目指し、学校単位をはじめ、個々の教員においても積極的な研修の取組みを推進する。

3 総合的な自己評価及び次年度に向けた改善点

- (1) 今年度は本校生徒全員がタブレットを活用しており、教員のICTを活用した授業改善がさらに進んだ。7割の生徒がICTを効果的に活用しており、8割の生徒が授業内容をおおよそ理解し、集中して授業を受けられている状況である。今後、タブレットによるグループワークでの活用の充実や、授業の理解度を深めるための効果的なICT活用の授業研究、新たな観点別評価に基づく指導と評価の一体化の効果的な授業改善を進めていく。また、本校に入学して良かったと考えている生徒が9割いることに甘んじることなく、教職員一同、令和7年度のコース改編に向けて、より一層の教育活動、特に探究活動の充実に取り組んでいく。
- (2) 「総合的な探究の時間」では、昨年に引き続き、令和7年度のコース改編を見据え、2年生で高大連携を軸としたゼミ形式の大学教員による指導助言を取入れた探究活動に取り組んでいる、探究活動を通して、その成果をまとめ、発表することで、将来の在り方生き方を考えさせ、進路実現のためのキャリア教育の充実にもつなげている。その結果として、8割以上の生徒が進路について計画的に情報を集めようとする意識が高まっており、効果は確実に出ています。さらに、7割以上の生徒が本校のキャリア教育プログラムや「総合的な探究の時間」などが進路を考える上で役立ったと考えており、全ての生徒のキャリアプランニング能力の育成を充実させるために、より一層の体系的・組織的な探究活動の充実や進路ガイダンスなどのキャリア教育の充実に取り組んでいく。
- (3) グローバル教育については、昨年に引き続き、国際コミュニケーションコースを核として、「英検対策講座(今年度より)」「韓国の高校生との直接交流会(本校への訪問)及びアメリカ・台湾の高校生とのオンライン授業による交流」「夏季休業中の英語集中講座」「神戸市外大訪問やJICA訪問」「総合的な学習の時間による模擬国連の体験(2年生)」など各種体験プログラムや行事を充実させている。普通科クラスの生徒を含めて6割の生徒がグローバルな人づくりのためのプログラムが充実していると考えており、コースの生徒はもとより普通科クラスを含めた全ての生徒が参加して体験できるプログラムを探究活動と関連させて充実していくことが課題である。
- (4) 令和7年度のコース改編に向けて、オープン・ハイスクールの内容の充実、またHPのリニューアルや中学生・保護者向けの学校説明会を含めて広報活動の充実を図っていく。昨年に引き続き、2年生の総合的な探究の時間での「北区活性化プロジェクト」における北区まちづくり課との連携、鈴蘭台駅でのフラワープロジェクト等の実施、また和太鼓部やダンス部、ギター部による各種地域行事の参加や編集部による鈴高新聞、鈴高miniプレスによる広報など、文化部を中心に多くの生徒が地域貢献活動に取り組み、校外にはHPで、校内では「神戸鈴蘭台 Go Global 通信」を掲示し、来校者に分かりやすく周知することで広報活動の充実を図った。
- (5) 「通級指導教室」実践校として3年目を迎えたが、学識経験者による教員研修や特別支援教育の視点で配慮が必要な生徒についての研修を実施することで、学校全体で共通理解を図った。今後は、通級指導の拠点校として、専門機関や協力校と連携し、生徒理解に向けた特別支援教育の研修のさらなる充実を図っていく。

4 学校関係者評価総括

・探究活動に重点を置いて活動している状況が、実際に2年生の「総合的な探究の時間」を見学してよく理解できた。特に生徒が主体的にグループワークを通じて積極的に授業に取り組んでいる姿勢は評価できる。また、タブレットなどICTを活用した探究活動が充実していることも高く評価できる。教員側について、引き続きICT活用のスキルを高めて欲しい。また、生徒側についてもタブレットの効果的に活用ができるようにさらに指導して欲しい。学校の様子については、教員からの情報を聞きたいので、学校評議委員会やPTA運営委員会などの教員の参加率を上げて欲しい、同時にHPの情報も逐次、適切に更新して情報発信を充実させて欲しい。

5 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(1) 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」の育成	①生徒が学習活動にスムーズに取り組めるよう、校内環境の整備・充実を図る。【総務部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	① 概ね良い状況である。
	②教員が授業研究に費やす時間や労力を確保できるよう、校務全般を見直す。【総務部】	②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	② 全般的に仕事量が増えている感がある。さらに業務改善をはかり、本来の授業研究の時間を確保するようする。
	③3～4人での教員グループによる相互授業参観の取組みを継続し、お互いに意見交換することで、授業研究を推進する。【教務部】	③授業研究の参加者数により評価する。（目標：100%）【教務部】	A	③ ICTの活用を中心に、生徒の主体的な学びを促す方法など様々な視点で授業研究ができた。すべての教員が取り組んだ。
	④協働学習やアクティブラーニングの実践において、ICTを効果的に活用する。【教務部】	④協働学習やアクティブラーニングの実践および授業におけるICT使用率により評価する。（目標：50%以上）【教務部】	A	④ 生徒の主体的な学習を促すために、ICTを活用してグループワークや発表など多岐にわたる方法に取り組んだ。
	⑤基本的生活習慣の定着を図り、夜遅くまでスマホを使用するなど遅刻・欠席の原因となる生活習慣の乱れを是正する。【生徒指導部】	⑤生活実態調査などで実態を把握しその変化を検証することで評価する。【生徒指導部】	B	⑤ ほとんどの生徒は、遅刻・欠席が少なく、基本的生活習慣が確立しているが、一部生徒に遅刻・欠席が目立つ。生活習慣確立のためのスマホの適切な使用方法等について今後も指導していく必要がある。
	⑥通級指導において、個に応じた教育支援を行い、苦手科目を少なくし、得意科目の伸張を図る。【特別支援教育】	⑥学習活動の成果(成績、活動内容)、希望進路の実現などから評価する。【特別支援教育】	B	⑥ 通級指導を通じて、学習や学校生活を円滑に出来ている。校内研修会などを通して生徒対応力の向上を図り、学習活動に活かせるようにした。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(2) 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体の育成	①防災学習を通して、防災意識を高め、自他の命を守る具体的行動を考えさせ、訓練などを実施する。【総務部】	①避難訓練など防災学習実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	① 避難訓練を行う意義を職員生徒ともに共有し、実施することが望まれる。防災以外にも不審者対応やJアラート等にも対応する力を養う訓練を行う。
	②生徒の健全な心身の成長を意図した、保健関連の講演会・研修会などを実施する。【総務部】	②講演会、研修会実施後の学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	A	② 保健部主催のAED講習会や保健講演会等、各学年で実施されている。
	③学年集会や全校集会における人権教育や「いじめ」に関する講話を通して、命を大切にし、自他を尊重する態度を育成する。【生徒指導部】	③「いじめ」に関するアンケート調査を年3回実施し、その内容を検証することにより評価する。【生徒指導部】	A	③ 「いじめ」アンケートを年3回実施。いじめ項目にマークしている生徒に対しては個別に担任・学年が状況聞き取り早期発見・対応・解決に向けた取組を行っている。また、アンケート結果を職員会議において報告し情報の共有化を図っている。
	④人権教育を通して人間性豊かな人材の育成を図る。【人権教育推進委員会】	④人権 HR（講演会）後の生徒感想文（作文）の内容により評価する。【人権教育推進委員会】	A	④ 講演会後の生徒の感想からは、今回のテーマであった「メンタルヘルス(心の健康)について」の意図が十分にくみ取られており、効果的であったと考えている。
	⑤県庁、県警、看護など各種インターンシップの参加を促進し、キャリア形成に資する体験活動を通じた機会を充実させる。【進路指導部】	⑤インターンシップの参加状況や生徒感想文などにより評価する。【進路指導部】	A	⑤ 看護体験・医療系体験に関しては、7名が説明会に参加し、5名が希望、4名が参加した。うち1人は、病院の倍率が高く抽選に漏れた。生徒の感想では「実際に働いているところを見学したり、体験してみて、診療放射線技師になりたいという意欲が高まった」「（ふれあい看護

	⑥卒業後の希望の進路に向けて、家庭での学習時間を確保し、学習時間の確立を図る。【進路指導部】	⑥学校評価アンケートなどにより評価する。【進路指導部】	B を通して）自分の将来を考えるきっかけになった」とあり、全員体験に参加してよかったと答えている。 また、体験を通して、看護・医療系への目標をさらに明確にした生徒もいれば、看護系への進学から別の進路へ変更する生徒もいるが、全員が体験自体を進路選択に生かすことができた述べ、且つ今後の学校生活の中で具体的な努力目標を持つことができるようになったと捉えている。 県庁インターンシップについては参加希望者がいなかった。県警インターンシップについては1名が参加し民間企業への就職へ繋げた。参加した生徒については、「どのような仕事をしいるかをたくさん知ることができ」、「大変な職務をこなす警察官の人達がいるからこそ平和が守られている」という意識を持つようになったことが、感想文から分かり、効果が大きいことが確認できた。 A ⑥ 学校評価アンケートでは（生徒用）生徒の44.8％が家庭における学習習慣（予習・復習）が身につけていると回答した（昨年比9.3％減。定期考査や課題考査では56％が学習計画を立てて取り組んでいると回答（4.6％減）したが、全体の55.1％が、日常的な家庭学習に取り組めておらず、全体の43.9％が定期考査などの直前であっても計画的に学習に取り組めていないことが分かった。 63.4％が自分の進路について計画的に情報を集めていると回答し（1.1％増、進路について関心がある一方で必ずしも日常的な学習には結びついておらず、将来への進路と結びついていない生徒が多いことが分かった。日常的な学習の達成感を得られるように促す必要がある。 本校の進路ガイダンス、HR、総合的な探究の時間などのキャリアプログラムにおいて、69.2％が自分の進路を考えるうえで役に立つと回答しており（0.7％増）、今後一層充実させることが望ましい。 今年度初めての取組として12月に2年生対象の大学講師による模擬授業を開催した。 感想文では「薬学もいいなと思っていたけれど、やっぱり自分は看護だと確信できました。文学についてまだ知らないことだらけなので、いろいろなところに足を運び夢に向かって頑張ります」、「同じ工学でも建築と情報ですごく話が変わるので、2つともの講義を受けて、どちらもそれぞれの分野で必要なことやどんなことをしているか分かったのよかったです」「とても興味が沸いたので、もっとロケットエンジン以外にも何について研究しているのか調べたり、オープンキャンパスにも行きたいと思いました」「人間の心理がこんなにおもしろいんだと思ったので、もっと対人系の心理について学びたいなと思いました」「今起こっていることを考えることが大切だと分かったから、ニュースを見ることを意識したい」「さらに興味がわいた」など、前向きな感想が多く目立った。 実際の目標や日常の学習時間に影響するかは、今後の学習時間や姿勢を注視していきたい。
--	---	------------------------------------	---

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(3) 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりの推進	①国際コミュニケーションコース体験入学をはじめとした各種行事に積極的に協力をし、広報活動を行う。【総務部】	①各種行事实施後の参加者アンケートなどや、国際コミュニケーションコース志願者数により評価する。【総務部】	A	① オープン・ハイスクールや国際コミュニケーションコース体験入学では概ね高評価を受けている。広報もホームページの充実を図っている。中学校訪問の機会を増やすとともに地域住民への広報も充実させる。
	②学校行事(文化祭や修学旅行等)を通して、異文化に関心をもち、広い視野をもって考えるグローバル人材を育成する。【生徒指導部】	②学校行事(文化祭や修学旅行等)の事後指導における生徒の感想により評価する。【生徒指導部】	A	② 文化祭・体育祭の事後指導において生徒たち（生徒会役員）から満足する感想が寄せられた。また、修学旅行では事後アンケートにおいて多数の生徒が「大変良かった」「良かった」に回答していた。
	③英語集中講座や留学生との交流を通して、自分の意見を論理的に伝える力を身につける機会を設ける。【コース・国際交流事業部】	③生徒のアンケート、講座内での取組を通じて評価する。【コース・国際交流事業委員会】	A	③ 英語集中講座および韓国・順天高校との交流を通し、積極的に自らの考えを伝える能力と意欲の向上が見られた。特に、韓国の高校生と継続的に交流する生徒も現れ、コミュニケーション能力向上に大きな影響をもたらしたと思われる。
	④英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力の向上及び異文化理解の促進を目的として、外部講師による土曜英会話クラス、英語外部検定取得の支援、スピーチ大会への参加、アメリカ、台湾及び韓国の高校との対面およびオンライン交流などの取組を実施する。【コース・国際交流事業部】	④学校評価アンケート、英語外部検定の結果及び取得状況により評価する。【コース・国際交流事業委員会】	B	④ 昨年度と比較して対面およびオンライン交流の取組みを充実させ、外国語によるコミュニケーション能力の向上や、国際交流への意欲の向上が見られた。また、各種取組の結果、CEFR A2（実用英語技能検定準2級相当）の取得状況に改善傾向が見られた。CEFR B1以上の取得率向上に向けてアプローチすること、及びコースに限らず普通科の生徒への取組みを拡充させることが、今後の課題である。
	⑤生徒にグローバルな機会を提供するため、短期海外研修を実施する。【コース・国際交流事業部】	⑤参加者へのアンケートにより評価する。【コース・国際交流事業委員会】	D	⑤ 参加希望者が最少催行人数を下回ったことから、実施を見送った。社会情勢の影響を受け、研修費用が高騰したことが要因であると考えられる。研修の実施可能性の向上と、その他の取組みの充実を図りたい。
重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
(4) 保護者・地域などとの連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりの推進	①学校ホームページなどを活用して生徒の様々な活動を校内外に積極的に発信することで、生徒自身に活躍する喜びや応援し支えられている意識を持たせ、地域・家庭との連携につなげる。【総務部】	①ホームページ閲覧数の変化及び学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】	B	① 広報もホームページの充実を図っている。今後は各部署の更新をこまめに行うように依頼する。
	②「総合的な探究の時間」や課外活動などを通して、地域に貢献し、地域を活性化する取組を推進し、社会に貢献する人づくりを進める。【生徒指導部】	②学校評価アンケートやふるさと貢献・活性化事業の参加者数、生徒感想などにより評価する。【生徒指導部】	A	② 文化部（和太鼓部・ダンス部・編集部・吹奏楽部・福祉活動部など）を中心に地域の活動に参加し貢献することができた。

	③社会人講話を実施し、実社会で期待されている人材（人財）の要件を生徒、職員が共有する。 【進路指導部】	③学校評価アンケートなどにより評価する。 【進路指導部】	A	③ 看護・医療、食・健康、経営、情報 IT、建築、幼児教育・保育系、通訳、消防・救急救命、国際協力の 9 つの分野の第一線で活躍する講師の方々から、職業と社会の繋がりや社会人に求められる資質について学び、多様化する社会の環境に関して興味・関心を広げる機会を設けた。学校評価アンケート（生徒用）では約 7 割の生徒が「総合的な探究の時間」でのキャリア教育プログラムが自分の進路を考える上で役立ったと回答し、69.2%の生徒が社会に貢献できる人づくりのためのプログラムが充実していると回答した。 今後もキャリア教育プログラムの在り方について全教職員が共有しながら、組織的・計画的に進めていく必要がある。
(5) 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。	①担当業務を明確化し、組織的に取り組むことで業務の効率化を図る。【総務部】 ②生徒に対して、育成する力を明確にして行事運営の見直しを図る。【総務部】 ③先進取組校への教員派遣を実施し、職員研修会で報告機会を設け全職員への還元を図る。 【教務部】 ④生徒会・部活動・学年などと連携しながら学校行事や地域活動などに自主的/自立的に取り組む生徒を育成する。【生徒指導部】 ⑤学年と連携し、1 学年「総合的な探究学習」で用いている「進路サポート」（キャリアノート）やキャリアパスポートを積極的に活用した体系的・系統的なキャリア教育を推進する。 【進路指導部】	①学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】 ②学校評価アンケートなどにより評価する。【総務部】 ③職員研修実施回数により評価する。（目標：年 1 回以上） 【教務部】 ④各行事の事後アンケートや学校評価アンケートなどにより評価する。【生徒指導部】 ⑤学校評価アンケートなどにより評価する。 【進路指導部】	B B A A A	① 各部署との連携は概ね良好である。行事等では各部署との連携を図り、業務のスリム化に努める。 ② 行事は全般的に適切である。生徒の行事への参加も高い意識で行えている。今後は準備段階でも生徒意見を取り入れ、積極的な参加できる工夫をする。 ③ 探究活動、データサイエンスに関する取り組みについて、姫路西高等学校の発表会に参加し、その内容を報告した。 ④ コロナ以前の状態で学校行事・地域活動を実施することができた。文化祭・体育祭・競技大会など本来の生徒主体の自主的・自立的な取り組みがなされた。 ⑤ 学校評価アンケート（生徒用）では、約 7 割が、本校のキャリア教育プログラムが自分の進路を考える上で役立ったと回答しており、3年間を見据えたキャリア教育に関する年間計画の下、組織的・継続的にキャリア教育を実施することができた。教員はキャリアパスポートを生徒理解の一助として活用し、生徒は自己分析を深め、働くことの意義や多様な職業、自らの興味や資質に応じた多様な進路の可能性について、キャリアノートを活用しながら系統立てて理解を深めた。今後は、生徒に現在の学びと将来の繋がりをさらに考えさせるキャリア教育を推進することを目指していきたい。

